



2021 日本のうたごえ祭典 in ひろしま

## 企画ニュース③

発行 2021.8.3  
祭典企画委員会

# “青い空は”を被爆者と共に

祭典2日目、「コンサートヒロシマ・Ⅱ」では、被爆された方々と共に「青い空は」を歌うステージを企画しています。被爆75年の節目の年に開催を予定していた昨年の祭典では、はじめから被爆者の方々を主人公にしたステージにしたいとの思いをもって企画されてきました。

一年延期され、被爆者の永年の悲願であった「核兵器全面禁止条約」が発効する年に開催されることになりました。

さらに、原爆投下後、放射性物質を含む「黒い雨」を浴びた住民を被爆者として認定する裁判が、一審で認められたとおりに高裁でも全面勝訴。7月26日政府が上告を断念するというビッグニュースが届いています。

今年の祭典では、被爆された方々が「生きていてよかった」と心の底から思っただけのステージを実現しましょう。

多くの被爆者の皆さんにステージに上がって頂き、被爆者の皆さんを囲んで子どもたちを含むヒロシマの市民と、作曲されて50周年となる「青い空は」を作曲者の大西進さんの指揮で大合唱ができたらしかなに素晴らしいことでしょう。その準備を進めています。



祭典企画委員会でコンサートの内容について検討を重ねる中で、高田委員長が「コンサートⅡの「青い空は」では、広島と全国のうたごえの仲間が被爆者を囲むような形で合唱するステージにしたい。」という熱い思いを語られました。これを実現するためにどうすれば被爆者の参加を得ることができるのかと考えていたところ、5月に西日本合唱講習会で被団協（広島県原爆被害者団体協議会）の佐久間理事長の講演を聞く機会がありました。

「被爆者団体の協力を得ることができればいいな。」と思いき「青い空は」の合唱への参加を募るチラシを新たに作り、被爆者団体をはじめいろいろな団体に声をかけていくことにしました。

8月が近づき、平和について考えることの多いこの時期に是非にと思い、被爆者である広島合唱団の小林貴子さんとともに、祭典チラシと「青い空は」の合唱団員募集のチラシをもって被団協を訪ねました。今回の祭典のメインテーマである「核兵器禁止条約発効！ひかりにむかって」について説明し、「青い空は」を歌う合唱団のメンバー募集に協力していただきたいとお願いしました。

佐久間理事長はこの趣旨に賛同して、「被爆者に限定せず、被爆二世や被爆者を支援している人(サポーター)も含めて考えたい。各地域の被爆者団体にも声をかけてみます。」と心強いことばをいただきました。



祭典の実施に向けて一步を踏み出したところですが、さらに歩を進めて「青い空は」の合唱団づくりの輪を広げていきたいとします。(企画委員 西村 美子)

## 作曲家・本番指揮者 大西進さんからの期待の声

1971年、この曲を作り初演された年の原水爆禁止世界大会、私は被爆者の分科会で、名越操さんから「被爆者の思いを伝えて欲しい。」と言われました。二度と原爆を使ってはいけないという被爆者の思いを伝えたいと思い、50年、この歌と一緒に歩いてきました。この歌を歌う時には、同時に被爆者の願いを一言でも添えてほしいと思います。

この歌は、ただ歌いやすいというだけでなく、ベトナムでは原爆を落とさせない力になりました。私自身、「青い空は」を通してうたごえの力を実感しました。このことをお伝えしながら12月のステージに立ちたいと思います。



## 「青い空は」に寄せて 作詞された小森香子さん

ビキニ・デーから50年が経った。杉並の母親が核兵器廃絶の署名に立ち上がり、原水禁世界大会へ、母親大会へ。当時、太郎さん(原水禁世界大会)・花子さん(母親大会)の大会、即ち日本国民を代表する国民運動といわれた。若い母親だった私は赤ん坊の息子を抱いて全体会の片隅にいた記憶がある。

プラハから帰って、働く母親になりたいと日本子どもを守る会に入り、一方、詩人会議で創作意欲をもやしたのは1960年代後半。そして原水禁大会にも子連れや若者が増えていくなかで『原爆を許すまじ』の悲痛な歌と共に、未来を希望し子どもと共に歌える新しい歌をという要求が起こり、詩が公募された。第2期革新都政をと青空バッジをつけて闘っていた1971年3月。「青い空は 青いままで 子どもらにつたえたい」。この詩は子どもを守る運動、平和と母親運動から生まれた詩である。榎田ふきさん、山口勇子さんらに選ばれた。つけられた曲は幾十曲とあり、大西進氏の曲が入選した。後に荒木栄賞となる。

真先に歌われたのは北爆さなかのベトナムハノイ放送で、男女デュエットで南の前線まで流されたという。「青い空は、平和・平等・自由・解放、そして真実のシンボルです」と訳をされた詩人ホアン・ハさんのメッセージを受けた。その年の世界大会、直後の母親大会、さらにその後、私が助言者に呼ばれた分科会では必ず『青い空は』の合唱から始まった。ある地方の講演会で女性教員が「私は4才の時、母親大会で覚えました」と歌ってくれた。

『青い空は』には半世紀近い母親の希いがこもっている。いま平和をくずしてはならない。

『わたしたちの平和の歌』(2004年 株式会社音楽センター発行)より